

# 「新潟県自然・環境保全連絡協議会」の発足にあたって

石 沢 進

「新潟の自然」は豊かであった。それは、長くて大きな河川、広大な平野と点在する沼・湿地、高い山岳、長い海岸線、海に浮かぶ離島の存在であり、その複雑な地理的環境に息づく生物は極めて豊かな状況にあったと推定される。

しかしながら、生活圏の拡大で、その豊かな自然が縮小し続けており、現在もその勢いは停止していない。

このような状況にある中で、新潟県の自然環境への見直しが必要である。21世紀は環境の時代、自然との共生と謳われ、行政・企業・市民も一体になって取り組む姿勢に変わりつつある。

しかし、自然環境そのものへの対応は極めて乏しい。県内の自然環境の実態を見直し、新たな未来を目指すべきである。例えば、ダムや道路の建設見直し、大規模改変の見直しなど自然環境の配慮を無視してはならない時代であると認識している。

また、自然環境の現状をつぶさに把握して基礎的な資料を長期にわたって蓄積し、自然環境の変化を継続的に観察する組織・機関、例えば、自然保護センターや科学博物館などの新設も必要である。他県では、すでにそのような公的な組織・機関を設けて取り組んでいるところが多い。残念ながら、新潟県にはそのような取り組みがなされていない現状である。ダム一つの建設を中止しても、将来の方向づけのためにそのような組織・機関の設置を優先させるべ

きである。

新潟県に残された自然環境の保全、すなわち「県内のすぐれた自然の保全とその継承」を行うこと、すぐれた自然環境をこれ以上破壊しないで次代に引き渡すことが大切であり、その方向を強く念願している。

この協議会が環境と人間の調和を基盤に活動し、継続して末長い発展を目指すことを祈念している。

この協議会の発足にあたって、準備委員会からの役割分担で冒頭の挨拶をすることになり、上記のような内容を話す予定であったが、与えられた短い時間内で言い尽くすことが出来なかったので、ここに掲載し、多くの方々のご理解をお願いしたい。

社 会

2004年(平成16年)9月21日(火曜日)

(日刊) 新 潟 日 報



県内団体間での連携を確認した県自然・環境保全連絡協議会の設立総会＝20日、新潟市の新潟ユニゾンプラザ

県内の環境保護団体や個人が集まって情報交換する「県自然・環境保全連絡協議会」の設立総会が二十日、新潟市で開かれた。約百三十人が参加し、各地で活動する個人や団体が連携し、自然保護に取り組む方針が確認された。

## 自然保護目指し連携 県保全連絡協が設立総会

同協議会は、野生動物や森林の保護、脱ダムなどを目指す環境NPO(民間非営利活動団体)三十団体が発起人となり、環境保護に関する勉強会の開催、行政などへ要望や提言を行うのが目的。会長には、県自然観察指導員の会会長の諸橋潔さんが選ばれた。設立総会で諸橋会長は「お互いに助け合うことで、環境保護という目標に一つでも近づきたい」などとあいさつした。

総会後には、「セナミスミレを育む会(村上市)や「関屋の松林を守る会」(新潟市)など六団体の代表が活動報告。

大学教授や経済団体代表らによるシンポジウムも行われた。

「新潟県植物保護協会」も本協議会の  
団体会員として登録しました。